

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770107320		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム ファミリーハウス美原		
所在地	堺市美原区平尾1848-1		
自己評価作成日	平成22年4月25日	評価結果市町村受理日	平成22年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770107320&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4F		
訪問調査日	平成22年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所されるとご家族やご近所の方との関係が希薄になりがちですが、出来るだけ色々な催しや行事に、ご家族の参加をお願いして、ご利用者と一緒に楽しんで頂き、楽しい思い出をたくさん作って頂きたいと考えております。又、地域の中で普通に生活できる様に当ホームの駐車場で「天寿会祭り」を開催して近隣の子供さんをはじめ老人会の方々にも来て頂き顔なじみの関係をつくる事で自然に挨拶を交わしたり、皆さんがいつでも気軽に訪れて頂けるホームを心がけています。介護でお困りの時は、いつでも相談に来て頂き、迅速丁寧な対応を心がけ、地域の皆さんから頼りになると信頼いただけるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に愛されるくつろぎと微笑みの家」を目指すとの思いが込められた理念の下、職員はその強い信頼と忠実な実践を積み重ね、地域に根差した運営を行っている。日常生活で今利用者ができることを引き出し、維持していくことが能力や存在感を呼び戻すとして、具体的に支援を続けている。利用者は無理のない状態で、日常生活において何らかの役割(食事の手伝い、見回り、お客へのお茶出しなど)を担当するようにとして、役割一覧表をリビングに大きく掲示している。一人ひとりのその人らしさが発揮され、人生の一こまーこまを大切にしている様子が伺える。毎月発送の家族へのメッセージ欄には、各担当者により利用者の暮らしぶりがパソコン記入で報告されている。職場全体が前向きで、職員は事業所全体の業務に多様に参画し、計画的に、きめ細かく支援の充実を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に愛されて家庭的な環境のもとと尊厳ある自立した生活を営む事ができるように、健康で明るくゆったりと老後を過ごして頂ける様に支援する。	「安心して生活できる自分の居場所を作ってあげる」ことを支援の原点として、具体的場面・内容においてどう支援するか、地域密着の視点、利用者と家族の視点から随時話し合い、目指す支援の在り方を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天寿会祭りを開催して、近隣の方や子供会・老人会の方との交流の機会を作りにしています。 老人会開催のイベントにも参加しています。	老人会のカラオケクラブに参加したり、近隣中学生の学習体験の受け入れ、陶芸・新舞踊、コーラス等でのボランティアとの交流等と、地域との多様なつながりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	作品展「みんなでつくっ展」では利用者の作品の展示と介護相談を開催しております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告・事故報告以外に、最近問題になりましたグループホームでの火災事故についての対応策等の意見を頂き改善できるように取り組んでいます。	年6回開催している。事業所からは行事や自己・外部評価等の報告が、家族・委員からは、日帰り旅行についての提案、近隣の祭りの情報、認知症の勉強会の案内、防災マップ作製の提案等が出され、対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会に参加したり、困難事例について相談にのってもらったりしています。当ホーム主催の喫茶「からたち」に参加頂くなどして協力関係を築くように努めています。公報も配布しております。	必要に応じて介護保険課に問い合わせたり、苦情相談に対しての対応で地域包括支援センターを訪問したりする。喫茶コーナーを開催して、在宅介護支援センター、地域包括支援センターと連携を取りながら、近隣住民からの介護相談にも応じようとしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、定期的に会議を開催して廃止に向けて努めている。	家族から安全のための要望等があった場合でも、工夫をし、取り組み方針を示している。各フロアーにはナンバーロックを採用しているが、極力外すようにしている。帰宅願望等の様子があれば、連れだって出かける。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の報告はなくホーム内での虐待はないと思います。 今後は、勉強会を開催して皆で話し合う機会を作り注意を促し防止に努めて参ります。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中々研修に参加する機会がありませんでしたので、5月に後見人制度と権利擁護について外部より講師を依頼して勉強会を開催する予定になっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い説明をさせて頂いております。又、利用料金の変更につきましては事前に書面にて了解を得るなどしています。家族会でも議題にして理解して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見交流の場「からたち会」やご家族の意見・要望を話し合う家族会・運営推進会議の開催と法人理事会の評議委員にも、ご家族代表で参加されています。	家族会や来訪時に、気がかりなこと等を聞くようにしている。食事の時間についての意見が、運営推進会議では旅行等の提案があったが、適切に対応している。訪問時の家族に食事の味つけ等の意見を聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長・管理者が参加しての全体会議を月1回開催しており提案や意見を発表する機会があります。	職員の意見が言いやすいように運営されており、職員の提言は信頼を持って取り入れられている。ボランティア残業はほとんどなく、福利厚生の一環として、法人主催の職員旅行、忘年会等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、職員の推薦により最優秀者を選び、頑張った職員を評価しています。資格のあるなしに関わらず、頑張った職員を正職に採用するなどしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職・パートを問わず資格修得や研修への参加の機会を公平に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間の相互研修に2名の参加と2名の受け入れを行いました。又、美原区・東区のグループホーム地域交流会を定期的に開催しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所間がない方に付きましては、職員が積極的にコミュニケーションを取り他の利用者さんと話すきっかけを意図的に作るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者だけでなく、ご家族も含めての関係づくりを目指していますので、ご家族参加型の施設ですと良く説明させて頂いております。何でも相談できる迅速・丁寧な対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や問い合わせに応じ、他施設の紹介も視野に入れてお話を進めています。その為に、他施設の情報の収集や居宅介護支援事業所とも連携を密にしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いはいませんが、役割分担を決めて協働する事で助け助けられの関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに入所する事でご家族との関係が希薄にならない様に行事への参加を積極的に呼びかけ、18名の利用者にご家族それに職員を入れて皆で一つの家族と考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解を事前にいただき、ご近所の方の面会やお友達の面会も特に制限はしておりません。 地域の夏祭りやカラオケ大会にも参加しています	知人・友人の面会時には、ゆったり過ごせるような雰囲気確保している。ドライブで自宅の近くに出かけたり、神社に寄ったりする等の支援をしている。家族と連れだってお好みの外出に出かけたり、昔からの喫茶店に入ったり、お墓参りをすることがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方のADLを踏まえ、意図的に気の合う方同士を同席にしたりする配慮をしています。 時には1F・2F合同で関わりの幅を広げるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一ヶ月以上の入院が見込まれる場合は一旦、退所になりますが、その後お力になれる事があればご相談に乗りますと退所時にお話し、その後の状態の把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々のかかわりの中から、利用者本人が何処でどのように暮らしたいか、何をしたいかなどの意向の把握に努めている。	利用者は何かできることやお手伝いをしたいとの気持ちが強く、出来ることを行い、いろいろな事を思い出すことができるよう、「お助け隊」の名で、全員が何らかの形で体を動かし、満足感が得られるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や暮らし方の情報を収集すると共にご利用者との会話の中から生活環境等の情報を集めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症があると自分で自分の時間をどのようにして過ごせばいいかを理解できなくなりますが、自分独りの時間と皆で過ごす時間のメリハリをつけて画一的な対応にならないように心がけています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者にも会議への参加を積極的に促し、又居室担当者は事前に意見等を聞いて情報の収集に努めています。	「ケアプラン実施表」に各フロアーリーダーは毎日の評価を記録している。計画作成者は、各居室担当者から情報を、家族からは面会の中で聞き取り、支援目標を明確にしている。見直しの設定期間を3カ月としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	居室担当者を中心に個別に情報を収集してアセスメント表を用いケアプランに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人の暮らしの継続性を守る為のサービスと、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し一人ひとりの要望の応じた支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数多くのボランティアの受け入れやホームの外での食事会等に積極的に参加、外出が出来る様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医の変更につきましては同意を得ています。又、ホーム内に主治医や協力医療機関の先生方の写真を掲示するなどして気軽に相談が出来る様に努めています。	自由な選択に基づき、利用前からのかかりつけ医で継続受診できるようにしているが、往診があることから、現在は全員が協力医療機関で受診を希望している。内科医は4週間間隔で、歯科医は週1回の頻度で往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の往診以外にも必要に応じて主治医が夜でも駆けつけて下さいますので大変、助かっています。気軽に相談できる関係が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはケアサマリーの提供や退院時につきましても病院のソーシャルワーカーと連絡を密にしています。又、入院中にお見舞いに伺うなど状態の把握にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向い主治医とご家族が直接話が出来る様に配慮して今後の対応を決めさせて頂いております。ホームで対応できる範囲が有る事も事前に話合っ、全員で情報を共有しています。	重度化した際についての事業所の対応方針は、「できること、できないこと(医療行為)」を明らかにして、早い段階から説明している。入院治療・緊急時の対応の仕方について確認書を作成し、家族と確認している。今までに看取りのケースはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って落ち着いて対応できるように定期的では有りませんが心肺蘇生の方法等の研修に参加していますが、新しい職員も増えましたので早急に勉強会を実施していきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施しています。地域住民の協力が不可欠の為、民生委員・老人会の各会長に協力依頼を致しました。	昼夜を想定した消防訓練を年2回実施している。平尾地区防災マップ作製、大規模特殊災害が発生した場合の消防協力事業所の登録等を行っている。しかし、地域住民も参加する避難訓練の実現までには至っていない。	催事に理事長から近隣住民に災害時の協力依頼を行っているが、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施することが望ましい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある生活の維持を心がけていますので、子ども扱いしないプライドを傷つけるような事を言わない様に職員全員で注意しています。	プライバシーに係わる家族との話し合いは会議室で行います、日々の業務の引継ぎは1Fの事務室内で行っています。自尊心を傷つけないように、敬語で話しかけ、目立たないトイレへの誘導を心がけている。利用者の各種名簿は慎重に取り扱い、保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも自分で自己決定できる様に意図的に機会を作り自分の気持を表現しやすいように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大きな流れは有りますが、一人ひとりの状態や思いに配慮して、散歩や買物等の声かけをするなどして柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室や理髪サービスでは自分の好みを聞いてもらえカットや毛染め・パーマを選択することが出来ます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲内で役割分担を決めて皆で準備や片付けをしています。	利用者は食材の皮むき等を手伝い、食事の雰囲気を楽しんでいる。職員は随時寄り添い、前向きな気持ちを引き出すよう声かけや場面の工夫をしている。食卓を囲んでの食事は絆を確かめ合う場になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体格も違えば、好き嫌いも有りますのでその方にあつた食事量を提供して無理強いする事の無い様にしています。体調の悪い方につきましては、一日の全体量で判断をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科往診で口腔衛生指導の実施や食後に歯磨きの励行と就寝前には義歯洗浄剤を使用して清潔保持にも努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	人間としての尊厳を重視していますので、オムツの使用で、その方のプライドを傷つける事がないような配慮が必要です。時間や場面に応じてオムツを外せる機会があれば取り組んでいます。	排泄チェック表でパターンを把握している。本人に合わせた用品(布パンツ・パット等)の検討を行い、可能な限りトイレで用が足せるよう自立に向けた支援を行っている。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。便秘時には、特に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や牛乳を多く飲んでもらったり、入浴時に腹部をマッサージする事で対応しています。緩下剤使用に際しては調整をその都度行い使用量を減らすなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日希望されれば入浴が出来る様にしていますが高齢の為、毎日の入浴は体力的にも問題がありますので主治医と相談の上、希望に沿った支援をしています。	午前・午後に入浴できる。入浴前にはバイタルチェックを行っている。マンツウマンの見守り・介助の場で親密になり、普段聞けない話が聞けることがある。入浴を嫌がる時には、言葉かけや対応に工夫することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には居室でゆっくりしてもらう時間を設けています。又夕食後はテレビを見ながら落ち着いてもらいカーテンを引き照明の明るさを調整するなど自然に眠れる環境をつくるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容は服薬時に確認できる様に薬ケースに明記し又、副作用や用法・用量は個々のケース記録にファイルされていて、いつでも確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品の制限はしていませんので、ビールを飲まれる方もいらっしゃいます。社交ダンスや花の水やり等、その方にあった支援を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	比較的外に出掛けることが多いホームです。近隣の散策や屋外での催しも多く外食の機会もあります。面会時に気分転換の為の喫茶店等への外出もご家族へお願いしています。	リハビリも含めて全員が、ホームの周りを散歩したり、近所を回ったりしている。郵便物の投函で外出したり、おやつや買い物に出かけたり、また敷地内で外気浴をしたり、音楽レクリエーションを行う時もある。毎月荘外食事会を実施しており、ドライブをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方につきましてはお金をもたれています。自分で管理が出来ない方につきましては、ホームの買物に行ってもらう時に支払いを意図的にしてもらうように場面設定をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される場合はポストまで一緒に手紙を出しにいきます。又、年に数回はお家族あてに手紙を書いてもらう機会を作っています。 年賀状やクリスマス会の招待状等		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの内外は季節の花で季節感を演出しています。フローアーには食事のご飯の炊ける匂いやコーヒー等の香りで居心地よく過ごして頂ける様に配慮しています。	門扉から玄関までは季節の花が植えられている。屋内は明るく清潔感が漂い、リビング・食堂は広くゆったりしている。柔らかい色合いのソファが適度に配置され、利用者は思い思いに時を過ごせるようになっている。職員・かかりつけ医の顔写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内での行き来やフローアーから少し離れた場所にコーナーを設置していますので気の合う方との団欒も可能です。時にはコーヒーの差し入れもして楽しく過ごして頂ける様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差が有りますが、ストーブ・仏壇のローソク・線香等の危険物以外は出来るだけ、持込をお願いしています。	洗面台が備え付けられた居室には、家族の写真、馴染みの藤椅子、手作り品等が持ち込まれており、利用者のこれまでの思い、経歴を感じさせる。その人らしく暮らしている姿は、自分の居場所であることを表している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や物の名前の方には、冷蔵庫や急須・スポンジ・洗剤等の物の名前を書いて張ってあります。お箸や茶碗も別々の物を用意して記名してありますので自分で探せるようにしています。		